祝 開校50周年　50ème anniversaire, depuis1973

日仏文化学院

パリ日本人学校

「あ・な・た」を大切にする 心のふるさとパリ日

校　訓

明るく
仲よく
たくましく

令和5年度 学校だより
第6号 9月1日発行

2学期始業式実施 充実の80日間のスタート!

～始業式 校長の言葉から 「一歩前へ!」～

今日から9月。旧暦では長月（ながつき）と呼ばれ、夜が長くなるという意味があるようです。そういえば、このごろ朝がなかなか明るくならないようになりました。日を追うごとに昼の時間が短くなりますが、9月も元気に生活しましょう。

さて、今日から2学期が始まりました。授業日は80日で、三つのうちで最も長い学期となります。そして、1学期以上に充実した日々になるはずです。なぜかというと、4月当初は

たくさんの新しい先生や新しい友達との出会いがあり、慣れるまでに時間がかかったはずです。でも、2学期は、先生や友達の良さも分かってきています。そんな中で行う授業や行事は、今までにない充実感を味わえることでしょう。

この10月1日で本校は開校50周年を迎えます。そして、6日に開校50周年記念式典、7日に「パリ日祭」があります。皆さんが活躍する場面がたくさん用意されています。ぜひ、一つ一つのことを前向きにとらえて、とことん取り組んでみましょう。1学期よりもずっと深まった連帯感が後押ししてくれるはずです。本日、皆さんには「**一歩前へ!**」という言葉を贈ります。今の自分よりも少しでも成長できる二学期にしていきましょう。

今日から新しくパリ日の仲間になった皆さん、ようこそパリ日へ。皆さんを心から歓迎します。パリ日の仲間や先生は困ったことがあれば、必ず親身になってくれます。今日から一緒にパリ日の歴史を作っていきましょう。

9月1日「防災の日」 ～100年前の今日 関東大震災～

9月1日、日本は「防災の日」です。今からちょうど100年前、1923年（大正12年）9月1日午前11時58分に関東地方を大きな地震が襲い、およそ10万5000人以上の人が亡くなりました。関東大震災と呼ばれています。特に東京都と神奈川県で死者が多く出ました。その多くが火災による死者でした。もちろん倒れた建物につぶされて亡くなった方も多くいます。

皆さんは今、地震がほとんど起きないフランスにいます。でも、いつかは日本に帰る時が来るでしょう。その時、どの地域に帰るかによりますが、必ずその地域には備えなければならない災害があるはずです。それらには、地震や津波、大雨やがけ崩れなど様々なものがあります。複雑な地形の日本では、場所によって様々な備えが必要です。それらをしっかりと受け止めて、自分の身は自分で守れるよう行動していけるといいですね。また、地域にはお年寄りがいて、災害に備える古くからの言い伝えなどをご存じの場合があります。そんな話に耳を傾けるのもいいですね。パリ日でも、二学期にバスの避難訓練や火災の訓練を行います。それぞれの目的をしっかりと理解して、真剣に取り組んで、もしもの時に備えましょう。

始業式 代表の言葉（作文発表）

◎2年１組　　ＫＫ　　2学きの抱負

ぼくは、9月末に本帰国するので、「あ・な・た」を大切にしながら、一日一日をすてきな思い出にしたいと思います。先生や友だちともあとちょっとの間だけど、仲よくできたらいいなと思います。 2学きの目ひょうは、九九をあんきしてすらすら言えるようになりたいです。

◎5年１組　ＡＲ　「考周伝話」

私のクラス、5年１組の目標は「考周伝話」です。「考周伝話」とは公衆電話ではありません。このように口で説明すると意味がわからないと思いますが、街の中にあるテレフォンの方の公衆電話ではなく、考えるの「考」、周りという字の「周」、伝えるという意味の「伝」に、「話す」という字で「考周伝話」といいます。この自分で考えて、周りの人に伝えて話すという「考周伝話」が私達5年１組のクラス目標なのです。

１学期は、転入生も多く、5年１組のクラスがより明るく楽しくなりました。その一方では、ケンカがおこったり、ルールを守れずに担任の先生にきびしくおこられたこともありました。なぜそのようなことになったかというと、一人一人が考え、周りに伝え話す、「考周伝話」を意識できていなかったからだと思います。2学期は下級生のお手本になるように、「考周伝話」を生かして生活をしていきたいと思います。

2学期も、こんな5年１組に新しい仲間がたくさんふえるといいなと思います。

中学部１年Ａ組 ＡＹ　2学期に頑張りたいこと

ぼくは、１学期の反省点や自分の欠点などを振り返り、2学期に頑張りたいことは、言うまでもなく、定期テストの勉強の仕方です。

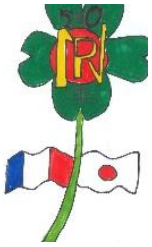
ぼくは、主要教科のできは、まあまあ点がよく自分でも納得がいったのですが、副教科のできは最悪でした。理由はその勉強の仕方にあると思います。それは、勉強をしようと思っても別のことに夢中になり、あるいは勉強をしている途中でもいつのまにか勉強とはまったく別のことをしていたので勉強時間を確保できなかったところです。ぼくの場合、漫画や本が大好きなので、いつも勉強をおこたり、または、勉強から逃げるように本にとびつくことだってあります。

そこで、勉強はなぜするのか、ぼくにとって必要なのかを調べ、考えてみました。勉強が必要な理由がわかれば、勉強をする気持ちもわいてきます。調べた結果、知識を得ることは普通に役に立つ、生きる力を身につける、自分の世界を広げる、将来の選択肢を増やす、好きなことをより楽しむ、忍耐力をつける、などがありました。

さらに林修先生は、たくさんの歴史を学ぶ中で、「歴史上敗北した人には3つの理由が当てはまると言っていました。情報不足・慢心・思い込みの3つです。ぼくの１学期のテストの敗北の原因と合わせて考えると、特に情報不足が当てはまり、本や漫画の楽しさの誘惑に負けてしまったことです。

2学期のテストに勝利するために、自分をいましめ、テスト期間中は、漫画や本を読まず、情報を増やすことを心がけたいと思います。

また勉強だけでなく、創立50周年式典やパリ日祭、社会科見学などの行事や日頃の生活でも仲間や先輩、先生と楽しい思い出を作れるように積極的に頑張りたいです。先輩方がしてくれる、リーダシップや思いやりの行動についても見習えるよう、学んでいきたいと思います。



今年も朝顔が咲きました！ TOKYO2020 からのフラワーレーンプロジェクト

１学期に種をまいた朝顔が、今年も無事に花を咲かせました。東京オリンピックパラリンピックから受け継いで日本からの種で咲かせたフラワーレーンプロジェクトの朝顔です。

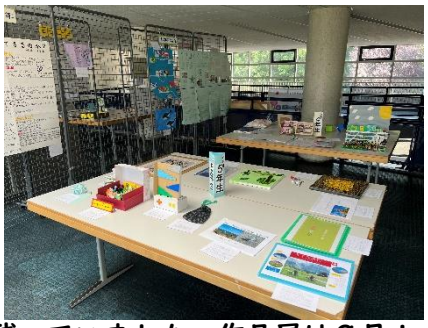
今年は６月に暑い日が多かったのに対し、７月には寒い日が多くなかなか生育しませんでした。１学期の間、毎朝水やりをしてもらいましたが、夏休み中は温度と日照を保つために、小体育館にすべての鉢を移動して、先生方が毎日交代で水やりをしました。そして、ようやく花が咲きました。

この後は種を採り、来年のパリ・オリンピックパラリンピックに合わせてどのように育てていくかを考えます。学校近くのベロドロームが自転車競技の会場となるので、みんなで咲かせた朝顔にメッセージを添えて会場入り口に飾る予定です。これからもみんなの力を貸してください。

図書室の本 バーコード化進行中！

１学期から、図書ボランティアの方を中心に、本校図書室の蔵書をバーコード化しています。これまでも本校の課題として叫ばれてきましたが、５０周年記念の年に作業を開始することができました。初日に業者からやり方を確認した後、作業を開始し、夏休み中は教職員が交代で作業を行いました。操作できる機材が少なく、一度に処理できる数が少ないため、完全終了までにはまだ時間がかかりますが、完了後は貸し出しや返却、蔵書管理が格段にしやすくなります。児童生徒の皆さん、今しばらくお待ちください。また、図書ボランティアの皆様、今後ともご協力をよろしくお願いします。

夏休み作品展 9月15日（金）まで ～充実した展示の数々～



今年も夏休み作品展として数々の力作が１階ホールに並びました。絵画や工作、おもちゃ作りや自由研究などバラエティに富んだ作品の数々と、その質の高さに思わず感嘆の声を上げてしまいました。

中には、パリ日の 50 周年にちなんだ工作を出品したり、親子でパリ日に学ぶご家庭が、トロカデロ時代とサンカンタン時代のパリ日を比較したりする自由研究もありました。貴重な当時の記録が実物で残っていました。作品展は９月１５日（金）まで実施しています。バスモニターなどでご来校の際に、ぜひともご覧ください。

“特集”　祝　開校５０周年記念　～パリ日の「宝」～　第２部

【第４回】パリ日の「お神輿」（おみこし）！

10月6日、7日の開校50周年記念式典と「パリ日祭」に向けて先生方が準備をしている中、パリ日に「お神輿」（おみこし）があるのを発見しました。コロナ前まで行われていた、旧「パリ日祭り」では校内に飾られていたようですが、コロナで祭りが中止または規模縮小となり、先生方の中でもほとんどその存在は知られていませんでした。

「神輿」（みこし）は音読みで「しんよ」とも読みます。本来は日本の神道（しんとう）で、神さまが神社からお出かけする時に乗る乗り物のことを指しています。輿（こし）とは、もともと宮廷貴族が乗っていた乗り物で、何人かの人が担いだり、牛などにひかせたりしていました。神様が乗る「輿」（こし）が「神輿（みこし）」。さらに、ていねいな「お」を付けて「お神輿」（おみこし）と呼ばれてきました。

私も子供時代、毎年7月15日前後に、天王様（てんのうさま）というお祭りで、お神輿を担いだ思い出があります。当時は何のお祭りなのか意味も分からずに参加していましたが、調べてみると「牛頭天王」（ごずてんのう）という怖い疫病（えきびょう）の神様をみんなでお祭りすることで、反対に病気にかからずご利益をもたらしていただこうという意味があったようです。

さて、パリ日のお神輿ですが、納められている木箱を調べてみますと、「手作り子供みこし」「ウッドハウス」という貼り紙が見られます。記録が残っていないので推測になりますが、どなたかが「パリ日が疫病神から守られ、児童生徒たちにさらに元気に楽しく学校生活を送ってほしい」という思いや願いをこめてこのお神輿を寄贈してくださったのかと思います。

世界中にたくさんある日本人学校の中には、これまでに内乱や戦争など、様々な理由で閉校しなければならなくなった学校もあります。（私がかつて在職したクウェート日本人学校も湾岸戦争のため無期限休校＝閉校となりました。）

パリ日の安心安全、子供たちの健全な成長を願って贈られたこのお神輿、これもまたパリ日の「宝」と言えるのではないでしょうか。

【木箱の貼り紙】